

# 06 「つ北授業モデル」を意識した授業実践

## 実践① 日常の経験と表現を結びつけ、イメージを膨らませるための課題との出会い

図画工作科 第6学年「オリジナルドリンクをプロデュースしよう」(6時間扱い)

目標：水の色の変化や美しさから発想・構想しながら、オリジナルドリンクをつくることを通して、どこにもない「新しさ」や自分なりの「よさ」「面白さ」を生み出すことを楽しむ。

### ○題材の流れ

本物を見抜く (第1時：本時)

16本の色水の中から、5本の偽物のドリンクを見抜く

えっ、  
ほとんどが本物なの。

ラベルが付いていないと、全然わからないね。



オリジナルドリンクのイメージを膨らませる (第1時：本時)

企画書を書きながら、ペットボトルに絵の具と水を混ぜ合わせてつくりたいドリンクのイメージをもつ。

自分なら  
こんなドリンクをつくる。



甘いけど、さっぱりした色、  
どんな色かな。



私のドリンク  
どう思う。

オリジナルドリンクをつくる  
(第2・3時)

ドリンクを完成させる。



自分のドリンクの売りは何。  
どうしたら、みんなに伝わるかな。

ドリンクをプロデュースする  
(第4・5時)

ドリンクを引き立てるラベルとポップ広告をつくる。

みんなのアイデア  
おもしろい。



販売会 (第6時)

完成したオリジナルドリンクのよさをアピールし、互いに購入し合う。



### ○本時（第1時）の冰山モデル

＜色彩への興味を引き出す＞



＜色水と企画書を往還しながら、イメージが膨らむ＞



ここにあるのは本物のドリンクです。  
(本物を用意する)

この中から偽物を当てられるかな。

企画書を書きながら、自分のつくりたいドリンクのイメージを膨らませよう。

絵の具と水を混ぜて、どんなドリンクができるの。

表現  
思考 判断

顕在

潜在



染料で色水づくりをした体験(3年生)



イスを塗装した体験(5年生)



日常生活で、自然に存在する色彩経験に影響を与える経験。



日頃の授業で出会う、パレットや筆洗バケツで生まれる混ざる色のおもしろさ。

子供が潜在的にもっている創造性や感性

# ○図画工作科 第6学年「オリジナルドリンクをプロデュースしよう」 (1/6時)

学習活動の流れ

1. 16本の色水の中から、絵の具でつくった偽物のドリンクを見抜く活動を通して、飲料水の色のおもしろさに着目する。



この中から絵の具でつくった偽物のドリンク5本を見抜いてください。

どっちが本物のドリンクだろう。

班ごとに話し合い偽物と思う5本を選ぶ

たぶん、4番は偽物だよ。



おいしそう・・・  
これは本物かな。

コーラは偽物だと思う。  
本物はもっと黒かったような・・・

**クリエイティブな  
思考**

ドリンクの色って、よく見るとおもしろい。  
自分でも絵の具で何かつくってみたい。  
誰も思いつかない、おもしろいドリンクを考えてみたい。

ねらい：① 色の面白さや美しさを感じる。

② 企画書を書いたり、色水をつくることを楽しんだりしながら、つくりたいオリジナルドリンクのイメージを膨らませる。

2. 企画書を書きながら、ペットボトルに絵の具と水を混ぜ合わせることを繰り返し、つくりたいドリンクのイメージを膨らませる。

絵の具と水を混ぜて、  
どんなドリンクができる  
でしょう。



企画書を書きながら、自分のつくりたいドリンクについて、たくさんイメージを膨らませよう。

どんどん色が変わる。  
自由に何度もやり直せる。  
楽しい。

まずは企画書  
を書いて、つくる  
ドリンクの構  
想を練ろう。



言葉とイメージ  
の往還活動

企画書と作品の間を行ったり来たりしながら  
イメージを膨らませる



「自分ならこんなドリンクをつくる」  
→たっぷりイメージを膨らませて、次時に臨む。

